

ティーチング・ステートメント

所属 臨床工学科

名前 三浦 寛子

作成日 2024年2月26日

【責任】

保健医療学部 臨床工学科に所属し、全学共通教育との兼担でもある。他の英語教員と共通のシラバスに基づいて必修の英語を担当しているが、そのほかにも医療英語概論や比較医療文化論などの専門教育を担当している。学科では就職支援センター主任として学生の就職のサポートをしている他、卒業研究を担当している。1年から3年までのPF面談を受け持ち、年間を通じて担当する学生との面談を継続している。また、華道部の顧問をしている。

【理念】

外国語教育の中で異文化理解を扱うことがあるが、これからは他国の文化に目を向けるよう導くだけでなく、身近な人や文化に対しても寛容であるよう指導する必要がある。今日では、ダイバーシティ(多様性)やインクルージョン(包括・受容)などこれまでの価値観を変える教育が必要である。また、ChatGPTが生活に浸透してきており、授業においては使用のガイドラインを明示すると共に、それを取り入れるような授業展開をする。自分にとっての英語との関わりを明確にさせることで、生涯学習にも繋げていきたい。

【方針・方法】

上記の理念を実現するために、「自らを磨く場を提供する」「成功体験を積ませる」「サポート態勢を構築する」ことを意識して教育をする。以下にこれら3つの方針に結び付けるための方法について述べる。

「自らを磨く場を提供する」

方法1: イベント、講演会、海外研修、ボランティア活動など様々な情報や機会を提供し、学生が能動的に経験できる場を与える。今の自分の力を知り、得意なことにはさらなる高みを目指して挑戦し、不得意な事に対しても学ぶ姿勢を持って取り組ませたい。

方法1: 英語の授業時間が十分であるとは言えないため、学生の英語との関わりを増やすために、授業外でも取り組める ChatGPT を活用したアプリなどを紹介する。また、その進捗状況なども把握できる手段を見出し、学生の変化を敏感に察知する。

「成功体験を味わえるタスクを取り入れる」

方法1: 学生に身につけさせたい力を学生自身にも理解させ、そのために有効と考える活動を継

続いて取り組ませる。お互いに刺激し合い、共にやり遂げようとする姿勢を身につけさせるために協働学習を取り入れたり、タスクの難易度をあげるなど、改善が必要と感じた場合はすぐに修正をする。

方法2: 学生自らがタスクに取り組む意義を感じているかどうかを確認するために、アンケート調査や成長を明示できるデータ収集を行い、結果を学生にフィードバックする。

「サポート態勢を構築する」

方法1: どのレベルの英語力の学生でも対応できるタスクを提供する。また、教員のみならず、ペアや小グループ活動を多く取り入れることで、仲間からのサポートも得られるように工夫する。

方法2: 発達障害などの問題を抱える学生に対応するために学生理解に努めると共に、カウンセリング力を磨く。

【評価・成果】

・研究テーマが TESOL(英語を母国語としない学習者への英語教授法)であるため、日々の授業実践が研究と強く結びついている。そのため、授業での新たな取り組みに対して、その実施前と後の質的データを分析し、学会発表や論文発表をした。

・大学が実施している「授業改善のためのアンケート」や独自の調査方法により学生の満足度、達成感などを確認し、授業に改善を加えた。

・PF 面談や学生との面談を通して学生を理解し、授業やゼミ活動、就職活動などの場で、学生に自信を持たせるような指導を心がけた。

【目標】

短期目標: 多様化する学生に適した教授法を考えて実践する。また、学生同士がサポートし合うペア、グループでのコミュニケーション活動を継続して取り入れ、効果の有無を検証する。

長期目標: 学生が自己を理解し、将来像を思い描けるような支援をする。